

研究実施状況報告書

平成31年 2月 22日

長崎県立大学長 様

研究責任者 所 属 看護栄養学部看護学科

職 名 教 授

氏 名 久佐賀 眞理



受付番号 328	承認番号 316
I 課 題 ひきこもり等社会から孤立する人（世帯）への多機関による支援体制構築に関する研究	
II 研究期間及び調査期間 研究期間 29年 7月 20日 ～ 31年 3月 31日 調査期間 29年 7月 20日 ～ 30年 12月 31日	
III 研究の実施状況（該当項目にチェックしてください） <input type="checkbox"/> 研究計画書どおり研究が終了した（公表方法：平成31年長崎県子ども女性障害者センターで、県・長崎市・杵岐保健所・長与町関係者への報告会と政策提言を行った。） <input type="checkbox"/> 研究計画書どおり研究を実施した <input checked="" type="checkbox"/> 研究計画を変更して研究を実施した 変更審査申請書提出（ <input checked="" type="checkbox"/> 済 ・ <input type="checkbox"/> 未 ） 変更内容：テーマ 変更理由：ひきこもりだけに特化した取り組みは現実的でないとの研究協働者からの提案をうけた。	
IV 今後の研究の概要（研究が継続の場合）	
V 研究結果の概要（研究が終了の場合） 1. ネットワーク形成には、個別支援を通じた支援機関間の連携、地域を限定した住民と関係機関の連携、市町行政の庁舎内連携の3方法があった。それらを同時進行させることで、働きかけをしなかった地域に比較し、働きかけた地域は2倍～6倍潜在化しているニーズの発掘が見られた。 2. 包括的会議においてネットワーク化が促進されるためのツールとして、地域情報シート、社会資源調査シート、地域の関係機関同士のつながり表、ライフステージ別の社会資源一覧、関係機関の強みと弱み一覧、不登校・ひきこもり社会資源ガイドブック等が開発された。庁舎内連携を促進	

するツールとして、自殺対策計画の活用、暮らしと命を守る支援者連携リストなどが開発された。

VI その他報告すべき事項

※V研究結果の概要については別紙での提出も可

VII ヒトゲノム・遺伝子解析研究の追加報告

1 提供された試料等の数

2 試料等保管の方法

3 外部の期間への試料等または遺伝情報の提供数

4 ヒトゲノム・遺伝子解析研究が実施された試料等の数

5 試料等の提供が行われる場合、匿名化を行った試料等の数

6 遺伝カウンセリングの実施状況

7 その他